

# ひとひと 男



# と

家庭、職場や地域で「男だから」「女だから」と性別で必要以上に行動や発言を決めつけていませんか？  
性別にとらわれず、一人ひとりが自分らしく生き生きと輝ける社会。  
そんな社会実現のため、この機会に男女共同参画について考えてみませんか？

# ひとひと 女



## 男性も女性も 誰もが輝ける社会

どうして 男女共同参画が必要？

り立たない時代を迎えています。そこで提案されたのが「男女共同参画社会」です。  
「男女共同参画」と聞くと女性のためにあり、男性は女性に対する配慮を求められていると感じるかもしれませんが、しかし、高齢化が進んだ今日、親の介護や高齢期の孤立化など、男性にも関わる問題がたくさんあります。このような問題に対応するためにも、男女共同参画は必要です。女性も男性も、子どももお年寄りも、誰もが笑顔で輝ける社会。私たちはそんな社会を目指しています。

アンケート結果から 見える地域性による意識

男女共同参画社会とは、性別に関わらず、誰もが自分の個性や能力をあらゆる場で発揮し、自分の意志でいろいろなことに取り組んだり、物事の決定に携わったりする社会です。

少子高齢化が急速に進み、4人に1人が高齢者という現代。生産人口の減少が進む中で、多様な人材を活用することは必要不可欠です。「男だから」「女だから」と言っているのは、経済も地域社会も成

ト増加し、少しずつですが、着実に浸透していることが分かります。  
次に「各分野における男女の平等について」の項目を見ると、家庭で男女平等と答えた人が29%、職場で24.3%、地域の中で21.3%、そして教育の場で49.5%となっています。この結果を内閣府調査(12年)と比較すると、一桁格差があったのは「地域」でした。  
また、女性リーダーの就任状況を比較したところ、県内の自治会長の就任状況は3.8%、市では0.7%でした。

これは地域で「リーダーは男性の役割」「女性は男性の補助をする」という意識が、男女共に都市部より強くあるからだと考えられます。

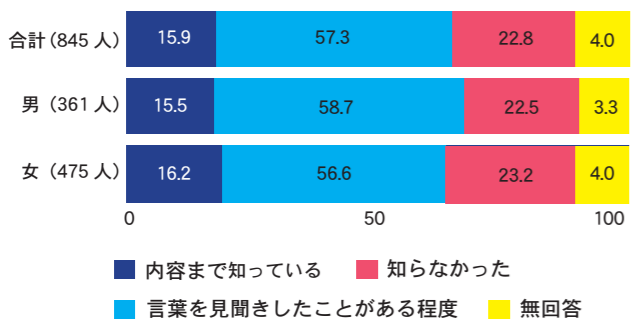
自分らしく 輝ける社会を目指して

「男らしさ」「女らしさ」という言葉は日常的に使用されています。しかし、言葉にとらわれ過ぎて「男はこうあるべき」「女はこうでないといけない」と自分を抑えてしまったり、希望する未来を諦めてしまったり、そういった考え方を相

手に押し付けてしまったりすることがあるのではないのでしょうか。  
例えば「保育士や看護師などは女性の仕事。消防士や運転手などは男性の仕事」「夫は外で仕事、家事や育児は妻の仕事」というように性別で区別していませんか。

「男だから」「女だから」という理由だけで、個人が判断されてしまう社会は誰にとっても生きにくいものです。市では、誰もが一人の人間としてその個性を尊重され、「自分らしく」生きていける社会を目指していきます。

■あなたは「男女共同参画社会」について知っていますか？ (単位：%)



■各分野における男女の平等について (抜粋) (単位：%)

分野	区分	平等になっている			内閣府調査 2012
		2013	2010	比較差	
家庭の中で	男性	36.0	34.4	1.6	53.8
	女性	23.6	22.8	0.8	41.0
	計	29.0	27.7	1.3	47.0
職場の中で	男性	25.8	25.2	0.6	32.0
	女性	23.4	18.4	5.0	25.3
	計	24.3	21.2	3.1	28.5
地域の中で	男性	26.9	25.2	1.7	57.0
	女性	17.3	15.1	2.2	47.7
	計	21.3	19.4	1.9	52.1
教育の場で	男性	58.4	54.4	4.0	68.5
	女性	42.9	45.2	△2.3	65.7
	計	49.5	48.7	0.8	67.0
社会全体として	男性	21.6	23.5	△1.9	30.0
	女性	11.4	12.2	△0.8	19.8
	計	15.7	17.0	△1.3	24.6

※ 男女共同参画に関する市民アンケート …… 調査期間は2014年3月3日～3月17日。調査対象は市内在住の満20歳以上の市民2千人。回答者数は845人。回答率は42.3% (男性361人、女性475人、不明9人)